



AKEBONO REPORT 2016

データブック

曙
ブレーキ
工業

曙ブレーキ工業株式会社

CSR社内推進状況(2015年度)

■自己評価凡例 ◎:5.0ポイント ○:4.0ポイント～4.9ポイント △:3.0ポイント～3.9ポイント ×:2.9ポイント以下 (社)日本自動車部品工業会「CSRチェックシート(平成22年4月改訂版)」を用いて5.0ポイント満点法にて実施。

分野	取り組み項目	担当組織	目標値(数値目標がある場合)	運用の仕組み・取り組み事例・達成度	自己評価
1. 安全・品質	1-1. お客様ニーズの把握・社会に有用な製品の提供	営業系部門 開発部門 品質保証部門		<ul style="list-style-type: none"> 基礎開発の開始時に市場ニーズや開発の狙いを確認する仕組みを設け、運用している。 適用開発の開始時にお客様ニーズを確認する仕組みを設け、運用している。 お客様からの引き合い、見積り依頼情報を受けた際の業務フローを規定し、インターネットワークシステムを用いて社内関係部署へ展開される仕組みを構築、運用している。 お客様の固有要求事項の最新版を入手し、社内関係部署へ展開する仕組みを整備し、運用している。 市場情報を積極的に収集し、その分析作業と活用の社内展開手順を定めた業務フローを規定し、運用している。 	◎
	1-2. 製品情報の適切提供	営業系部門 品質保証部門 生産拠点		<ul style="list-style-type: none"> 開発段階の技術情報をお客様に提供する際の情報開示基準、業務フローを規定し、運用している。 製品内容をお客様の要求内容、法令と照らし合わせ、IMDS(自動車業界の国際的な材料データ報告システム)などに基づいた情報の開示、提供する仕組みを整備、運用している。また、市場不具合情報の収集・分析・伝達の体制を構築、運用している。 	○
	1-3. 製品の安全確保	開発部門 品質保証部門 生産拠点		<ul style="list-style-type: none"> 商品化前の製品の安全性の検証手順を規定している。 お客様に製品を提供する前に、使用条件や使用環境による製品への影響をチェックし、FMEA(故障モードと影響解析)やFTA(故障の木解析)手法を活用した不具合モードを検証し、有用性の判定を行う仕組みを構築、運用している。 法規制や安全性の適合確認。市場やお客様ニーズとの適合を開発段階で確認・審査する仕組みを構築し、運用している。商品化後に不具合が発生した場合は、その不具合の対処手順、分析から処置に至るまでの対処手順を定めた業務フローを規定し、運用している。 不具合情報のグローバル拠点への水平展開を迅速に実施するため、不具合情報グローバルネットワークを構築し運用している。 	○
	1-4. 製品の品質確保	品質保証部門	品質マネジメントシステム運営委員会の実施 (1回/隔月)	<ul style="list-style-type: none"> 品質マネジメント活動を実施する組織体制および品質マネジメントシステムを構築し、運用している。 年度品質目標を立て、PDCAを回しながら、継続的に改善している。 製品実現過程での先行製品品質計画(APQP)の節目をグローバル生産拠点と統一し運用している。 品質確保を確実に行なうために、生産設備開発業務およびグローバル生産対応の仕組みを構築し運用している。 ISO9001、ISO/TS16949認証登録維持。改定規格ISO 9001:2015を含めた品質マネジメントシステムの強化を推進中。 	○
	2-1. 差別撤廃(雇用機会の均等化)	人事部		<ul style="list-style-type: none"> 性別区分のない給与体系および評価制度を運用している。 昇給、昇格審査の審査書類に性別を表示・記載する欄を設けていない。 	○
	2-2. 人権尊重(ハラスメント防止)	人事部 コンプライアンス委員会	コンプライアンス周知活動を実施(2回/年)	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス遵守の重要性の認識をより高めるため「コンプライアンステスト」を全社に導入。 コンプライアンスに関する社内相談窓口を設置し、社内周知している。 情報提供者保護の社内規程を制定し運用している。 	○
	2-3. 児童労働の禁止	人事部		<ul style="list-style-type: none"> 年齢が確認、証明できる書類を入社時の提出書類に含めることを就業規則において制定し、運用している。 	○
	2-4. 強制労働の禁止	人事部		<ul style="list-style-type: none"> パスポートは本人確認の目的など必要に応じて「確認」を行う場はあるが、「原本の提出(会社保管)」は求めていない。また、就業規則に規定している入社時の提出書類にも含んでいない。 	○
	2-5. 賃金	人事部	最低賃金の確認を実施(1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県の最低賃金と給与データベースの照合を行い、最低賃金に抵触していないことを確認している。 	○
2. 人権・労働	2-6. 労働時間	人事部	時間管理の説明会を管理職へ実施(1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> 基本条項を超える時間外労働は事前届出制とすることを労使協定内で規定し、運用している。 勤怠管理電子システムの導入により、労働基準との適合を検証できるシステムを運用している。 	○
	2-7. 社員との対話・協議	人事部		<ul style="list-style-type: none"> 労働協約の中で、労使協議の開催頻度や協議項目について規定し、運用している。 	○
	2-8. 安全・健康な労働環境	中央安全環境委員会	労働災害低減(前年度比50%減):3件以下/年	<ul style="list-style-type: none"> 中央安全環境委員会において、機械装置の安全対策や職場施設の衛生管理など、年間活動計画を定めて運用している。 FRESHセンター、健康管理室などの施設を設け、健康管理に関する年間活動計画を定めて運用している。 国内の安全マニュアルを基軸として、共通項目を設定し海外拠点にて運用している。 	○
	2-9. 人材(人財)育成	人事部	階層別・職務別教育研修を実施(各種1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> 研修センター「Ai-Village」を設立し、グローバルで人財育成を行なえる場を保有している。 社内研修プログラムを一冊にまとめたガイドブックを製本、配布し、全社員に研修の機会を提供している。 グローバル化への対応を受けて世界各国のグループ拠点のマネジャーを集めたグローバル研修を開催(2回/年) 階層別、職務別のマトリクス体系で教育研修プログラムを策定し、運用している。 (階層別研修実績:新人研修(春・秋)各1回、入社2年目、3年目、7年目研修、新任班長研修1回、新任係長研修1回、新任幹部職研修1回、新任部長研修1回) 	○

※ 自己評価には(社)日本自動車部品工業会の「CSRチェックシート(平成22年4月改訂版)」を用いた。各項目における社内推進のPDCAを検証することを目的として実施した。

CSR社内推進状況(2015年度)

■自己評価凡例 ◎:5.0ポイント ○:4.0ポイント～4.9ポイント △:3.0ポイント～3.9ポイント ×:2.9ポイント以下 (社)日本自動車部品工業会「CSRチェックシート(平成22年4月改訂版)」を用いて5.0ポイント満点法にて実施。

分野	取り組み項目	担当組織	目標値(数値目標がある場合)	運用の仕組み・取り組み事例・達成度	自己評価
3. 環境	3-1. 環境マネジメント	地球環境委員会、ほか	ISO14001 認証更新 環境教育推進	<ul style="list-style-type: none"> 山形製造、AKBT(タイ)など4拠点のISO14001更新。 オンライン環境教育の展開など環境教育を充実。 植生に配慮した植樹活動の継続。 	○
	3-2. 温室効果ガスの排出削減	地球環境委員会(CO ₂ 排出量削減プロジェクト)	2020年度までCO ₂ 排出量原単位 毎年 年平均1%以上削減(JAPIA目標値 準拠)	<ul style="list-style-type: none"> 次世代摩擦材製造設備の導入や製造所屋根への断熱塗料塗布などにより、2015年度の売上あたりのグローバルCO₂排出量は5.1%低減した。 	○
	3-3. 大気・水・土壤等の環境汚染防止	地球環境委員会 (物流環境分科会)	輸送効率の改善、エネルギー使用効率 前年度比1%以上向上(省エネ法準拠)	<ul style="list-style-type: none"> 輸送トラックのリアルタイム運行管理物流などによりCO₂発生量を前年比4.8%削減。 	○
	3-4. 省資源・廃棄物削減	生産部門	環境負荷軽減活動の継続	<ul style="list-style-type: none"> 重油焚きボイラーを廃止し、ヒートポンプ式に置き換え、硫黄酸化物の排出量を低減。 	○
	3-5. 化学物質管理	地球環境委員会 (ゼロエミッション分科会)	・ゼロエミッションの維持継続 (直接埋め立て廃棄物ゼロ・単純焼却ゼロ) ・廃棄物の削減・適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> 鋳物廃砂のセメント原材料化などにより、2015年度もゼロエミッション(直接埋め立てゼロ、単純焼却ゼロ)を継続達成した。 機械加工工程で使われた切削液をろ過・遠心分離することにより浄化、再利用し切削液の排出量を低減。 	○
4. コンプライアンス	4-1. 法令の遵守 (コンプライアンス管理)	コンプライアンス委員会	コンプライアンス委員会を開催(5回/年) コンプライアンステストを実施(1回/年) 研修会実施(6回/年) 職場討議(1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス委員会を定期的に開催し(5回)、コンプライアンスに関する問題・施策につき審議している。 コンプライアンスに関する知識の定着を図るべく、国内の全社員を対象にコンプライアンスに関するテストを実施した(1回)。 研修会(6回)、コンプライアンス強化月間の施策として職場討議を実施し、社内啓発を行っている。 	○
	4-2. 競争法の遵守	コンプライアンス委員会	研修会の実施 11回/年	<ul style="list-style-type: none"> カルテル・談合防止に関するガイドラインを作成し周知した。 最近の事例をまとめ、インフラ等で配信し注意喚起を行っている。 下請法に関する研修を実施し(11回)、啓発活動を推進している。 	○
	4-3. 腐敗防止	コンプライアンス委員会		<ul style="list-style-type: none"> 贈賄防止ガイドラインを作成し、国内外で注意喚起を行っている。 	○
	4-4. 機密情報の管理・保護	コンプライアンス委員会	営業秘密の管理状況監査・見直し(1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> 営業秘密の管理状況を定期的に監査・見直しとともに(1回)、行動基準や冊子を配布し、国内外で注意喚起を行っている。 	○
	4-5. 輸出取引管理	コンプライアンス委員会	研修会実施(1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> 社内規程で管理体制や運用フローを規定し、その実施状況を監査、確認している。 「安全保障輸出管理規程」は経済産業省に受理され、届出企業として登録されている。 研修会を実施し(1回)、社内啓発を行っている。 	○
	4-6. 知的財産の保護	法務・知的財産部		<ul style="list-style-type: none"> 特許保証(他社の特許を侵害しないこと):国内PR-2.4での製品の特許保証を特許検討書により実施。海外(US、欧州)でも同様。 開発特許委員会:新着他社特許公報を開発内のWG毎に評価し登録する取り組みを継続。(他社動向の確認、他社特許への気付き) 	○
5. 情報開示	5-1. ステークホルダーへの情報開示	広報室 IR室	AKEBONO REPORTを発行 (日本語版、英語版:1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーに対して、適切と思われる内容やタイミングを考慮して情報を開示している。また財務状況や業績・事業活動などについてはTdnet、EDINETなどの情報開示ルールに則り適時開示している。 ウェブサイトを随時更新し、わかりやすいように改良しながら、最新情報を記載している。 会社案内、CSR報告書、アニュアルレポートの機能を統合したAKEBONO REPORTを発行。当社の各種取り組みに関する情報を総合的に一冊にまとめてことで、ステークホルダーの利便性を高める工夫を行っている。 	○

※ 自己評価には(社)日本自動車部品工業会の「CSRチェックシート(平成22年4月改訂版)」を用いた。各項目における社内推進のPDCAを検証することを目的として実施した。

CSR社内推進状況(2015年度)

■自己評価凡例 ◎:5.0ポイント ○:4.0ポイント～4.9ポイント △:3.0ポイント～3.9ポイント ×:2.9ポイント以下 (社)日本自動車部品工業会「CSRチェックシート(平成22年4月改訂版)」を用いて5.0ポイント満点法にて実施。

分野	取り組み項目	担当組織	目標値(数値目標がある場合)	運用の仕組み・取り組み事例・達成度	自己評価
6.リスクマネジメント	6-1.全社的なリスク管理の仕組み	リスク管理委員会/リスク評価委員会	重点リスク毎のリスク対応計画の策定から始まるPDCAサイクル管理	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、全社重点リスクを洗い出し、重点リスクごとに責任者・担当部署を選定し、リスク対応計画を策定、リスク評価委員会において審議される。承認された同計画の進捗状況は、定期的にリスク評価委員会に報告される。 海外拠点においても、それぞれのリスク管理体制を構築しており、各拠点のリスク対応計画の進捗状況も半年ごとにリスク評価委員会に報告される。 毎年の国内外のリスクマネジメント活動状況報告および活動方針は、リスク管理委員会の審議を経て、取締役会に報告されている。 	○
	6-2.事業継続管理(BCM)の強化	BCM対策部会(リスク管理委員会傘下の特別部会)	・緊急災害時のためのBCP策定 ・災害発生時の拠点間連携訓練実施(1回/年)	<ul style="list-style-type: none"> 地震シミュレーションによる訓練や災害対策マニュアルの整備などを通じて、災害発生時の「初動対応計画」のレベルは年々向上している。 2013年4月に発足させた組織横断的チームのBCM対策部会は、日本での巨大地震を想定して、優先アイテムについて、「災害復旧」や「事業継続対応」も含めた包括的なBCP(事業継続計画)の策定、各拠点毎の設備耐震化などの減災計画、サプライチェーンリスク、情報システムリスクの分析・対応、代替生産能力分析などに取り組んできた。課題もかなり明らかになっており、今後も対策実施を継続する。 自然災害のみならず、カントリーリスク、サイバー攻撃、パンデミック発生なども事業中断の原因となりうるので、これらのリスクについてもBCMの取り組みを拡大している。 	
7.社会貢献	7-1.地域(コミュニティ)への貢献	総務部	地域住民懇談会を実施(1回以上/年) 納涼祭を実施(1回/年) 地域清掃ボランティアを実施(2回/年)	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民懇談会を継続的に実施し、地域住民の方々との意見交換の場を定期的にもうけている(2015年度全拠点累計6回、参加者合計47名)。 小・中学校の工場見学の受け入れや、社員の家族を対象とした職場見学会を実施している(2015年度全拠点累計30回、参加者合計1,144名)。 納涼祭を2015年度も継続して実施した(2015年度 6拠点、参加者合計7,262名)。 地域清掃ボランティアを定期的に実施している(全拠点累計10回、参加者合計467名)。 地域緑化活動を定期的に実施している(全拠点累計7回、参加者合計141名)。 	△
8.CSR推進体制	8-1.自社内におけるCSR活動の仕組み・展開	プランディング室		<ul style="list-style-type: none"> 「CSRはコーポレートブランド経営を進めていく上で不可欠な企業の存続条件」という位置づけで、コーポレートブランド経営を推進する部署で取りまとめている。 各部署及びプランディング委員会で決めた目標に基づいて設定された施策が実施されているかにつき社員意識調査を行った。その調査結果から強みや課題を抽出し、強みは伸ばし、課題は改善するよう社内に展開を行っている。 	○
	8-2.お取引先様へのCSR活動の仕組み・展開	調達部門		<ul style="list-style-type: none"> 関係法令の遵守、取引機会の公平を旨とする取引を通じ、お取引先様とのより良いパートナーシップづくりに努めるとともに、2012年2月にはグリーン調達ガイドラインを改訂、2013年からは紛争鉱物調査サプライチェーンに展開し、地球環境、人権保護に配慮した部品、材料の調達の一層の強化にも取り組んでいる。 2014年1月より当社のウェブサイトに「お取引先様 困りごと窓口」を開設し取引上の問題を吸上げ改善していく仕組みも整備。 	

※ 自己評価には(社)日本自動車部品工業会の「CSRチェックシート(平成22年4月改訂版)」を用いた。各項目における社内推進のPDCAを検証することを目的として実施した。

環境目標と2015年度実績

開 発	取り組み項目	環境負荷物質(SOC)フリー	中長期目標	2020年まで鉛フリー焼結材に切替完了 (新幹線、在来線)	
	2015年度の目標	2015年度実績		2016年度以降の取り組み	
・創出完了した車両の既存材から鉛フリー材への置き換え推進 ・残りの車両の鉛フリー材創出	2015年度 鉛フリー化率 55% (昨年度46%) 一部車両以外の鉛フリー材創出完了 創出完了したものから隨時、既存材から鉛フリー材への置き換えを展開中	・創出完了した車両の既存材から鉛フリー材への置き換え推進 ・残りの車両の鉛フリー材創出			

生 産	取り組み項目	生産拠点CO ₂ 排出量削減	中長期目標	2020年までCO ₂ 原単位を年平均1%以上改善	
		ISO14001の取り組みの継続と改善		環境取り組みの改善継続	
		生産拠点の埋め立て廃棄物ゼロ(ゼロエミッション活動)		ゼロエミッションを維持継続する	
2015年度の目標	2015年度実績		2016年度以降の取り組み		
・CO ₂ 原単位1%以上低減 ・ISO14001の定着および確実な更新 ・ゼロエミッション継続(直接埋め立てゼロ)	重油焚きボイラーのヒートポンプへの置き換え、屋根への断熱塗料塗布などにより、CO ₂ 原単位は2014年度比5.1%削減達成 AKBT(タイ)等4拠点がISO14001認証を更新 ゼロエミッション継続(直接埋め立てゼロ)		・CO ₂ 対策や省エネ技術の情報をグローバルに収集展開し、CO ₂ 排出量削減対策をさらに推進する ・ISO14001の定着および確実な更新 ・ゼロエミッションの継続(直接埋め立てゼロ)		

環 境 教 育	取り組み項目	環境道場	中長期目標	環境道場で体験研修して環境保全のできる人づくりを行い各拠点に持ち帰り広める	
	2015年度の目標	2015年度実績		2016年度以降の取り組み	
	・環境道場:受講者のフォローアップとカリキュラムへの反映	・講座が専門的すぎるとの受講者感想を受け、CO ₂ 量をポリ袋で可視化する等、簡単な実験を組み入れた講座を開設、受講者に選択の幅を広げた ・米国ABCTにて運用中のオンライン環境安全講座「どこでも道場」の日本での展開推進		・環境道場:受講者のフォローアップとカリキュラムへの反映	

環境目標と2015年度実績

物 流	取り組み項目	改正省エネ法への対応(荷主への省エネ義務)	中長期目標	省エネ改善目標値:エネルギー消費原単位1%削減(前年度比)	
	2015年度の目標	2015年度実績		2016年度以降の取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費原単位1%削減(前年度比)を継続展開 		<p>物流におけるCO₂発生量を前年比4.8%削減 <改善活動></p> <ul style="list-style-type: none"> エコドライブ活動の展開、安全&エコ運転講習会 トラックのリアルタイム運行管理システム(動態管理)導入 		<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費原単位1%以上削減(前年度比)を継続展開 	

調 達	取り組み項目	グリーン調達推進	中長期目標	グリーン調達ガイドラインに沿った購入ができる仕組み、体制を確立していく	
	2015年度の目標	2015年度実績		2016年度以降の取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> お取引先様のための品質管理基準マニュアル(SQM)の見直し 		<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷物質の低減、低エネルギー化を考慮した代替材について、お取引先様と共に調査、提案 お取引先様の環境負荷物質に対する理解向上のため、SQMについて下記改訂を実施 <ul style="list-style-type: none"> → GADSL^{*1}についての解説の充実 → 環境負荷物質に対する諸手続きの明確化 		<ul style="list-style-type: none"> お取引先様の環境マネジメントシステムのレベルアップ推進 環境負荷物質のサプライチェーン調査(IMDS^{*2})の展開継続 	

生 産 技 術	取り組み項目	省資源設計の推進	中長期目標	生産設備・ツーリングに関して、「再利用できる設計」「材料歩留まりの良い設計」「エネルギー消費の少ない設計」「環境負荷を考慮した設計」を目指し、環境に優しいモノづくりを目指す	
	2015年度の目標	2015年度実績		2016年度以降の取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> 省資源・省エネルギー技術のさらなる進歩と深掘りの継続 		<ul style="list-style-type: none"> メタルディスク製造に関わる焼結工程のエネルギー効率を70%改善可能にする次世代設備を福島製造に設置完了 		<ul style="list-style-type: none"> 省資源・省エネルギー技術のさらなる進歩と深掘りの継続 	

※1【GADSL】Global Automotive Declarable Substance List

※2【IMDS】International Material Data System(自動車業界の国際的な材料データ報告システム)

akebono国内主要企業別環境データ

曙ブレーキ山形製造株式会社 生産品目:ディスクブレーキパッド

[2000年3月 ISO14001認証取得]

◆大気(大気汚染防止法、県条例)	項目	単位	基準 規制値	2014年度実績		2015年度実績	
				最大値	平均値	最大値	平均値
	ばいじん	g/m ³ N	0.1	0.047	0.034	0.044	0.032
	NOx	ppm	950	740	685	790	760
	SOx	m ³ N/h	7.91	—	0.7	—	0.7

◆水質(水質汚濁防止法、県条例)	項目	単位	通常	日間平均	最大値		平均値		最大値		平均値	
					最大値	平均値	最大値	平均値	最大値	平均値	最大値	平均値
	pH	—	5.8~8.6	—	7.4	7	7.5	7.1	—	—	—	—
	BOD	mg/l	25	20	4	1.9	11.9	2.9	—	—	—	—
	ss(懸濁物質)	mg/l	60	50	17	10.2	5.5	3.8	—	—	—	—
	油分(nヘキサン抽出物)	mg/l	5	—	2.1	1.3	2.2	1.5	—	—	—	—
	大腸菌	個/cm ³	—	3,000	—	—	—	—	—	—	—	—
	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物、硝酸化合物	mg/l	100	—	10	5.1	7.6	6.0	—	—	—	—

◆PRTR法対象化学物質

単位:kg/年度

物質名	取扱量		排出量				移動量				除去処理量		消費量 (製品付着)	
			大気		水域		埋立		リサイクル					
	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度
アンチモン及びその化合物	27,100	25,200	0	0	0	0	0	0	3,200	3,000	0	0	23,900	22,200
キシレン	6,300	6,700	300	300	0	0	0	0	0	0	6,000	6,400	0	0
クロム及び三価クロム化合物	5,700	7,200	0	0	0	0	0	0	700	900	0	0	5,000	6,300
ヘキサメチレンテトラミン	55,000	56,800	0	0	0	0	0	0	6,600	6,800	48,400	50,000	0	0
トリエチルアミン	1,400	1,400	0	0	0	0	0	0	0	0	1,400	1,400	0	0
トルエン	3,000	2,900	3,000	2,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フェノール	13,500	21,200	0	0	0	0	0	0	1,600	2,500	11,900	18,700	0	0
マンガン及びその化合物	6,700	7,300	0	0	0	0	0	0	800	900	0	0	5,900	6,400
モリブデン及びその化合物	3,200	3,600	0	0	0	0	0	0	400	400	0	0	2,800	3,200
総合計	121,900	132,300	3,300	3,200	0	0	0	0	13,300	14,500	67,700	76,500	37,600	38,100

akebono国内主要企業別環境データ

曙ブレーキ福島製造株式会社 生産品目:ブレーキライニング

[2000年3月 ISO14001認証取得]

◆大気(大気汚染防止法、県条例)	項目	単位	基準		2014年度実績		2015年度実績	
			規制値	最大値	平均値	最大値	平均値	最大値
	ばいじん	g/m ³ N	—	0.028	0.017	0.012	0.009	
	NOx	ppm	—	60	53	43	43	
	SOx	m ³ N/h	0.87	0.009	0.006	0.006	0.0047	

◆水質(水質汚濁防止法、県条例)	項目	単位	通常	日間平均	最大値		平均値	
					最大値	平均値	最大値	平均値
	pH	—	5.8~8.6	—	7.3	7.1	7.4	7.0
	BOD	mg/l	40	—	1.9	1.5	2.3	1.6
	ss(懸濁物質)	mg/l	70	—	32	13.5	22	11.3
	油分(nヘキサン抽出物)	mg/l	10	—	1.0未満	1.0未満	1.0未満	1.0未満
	大腸菌	個/cm ³	—	3,000	不検出	不検出	不検出	不検出

◆PRTR法対象化学物質

単位:kg/年度

物質名	取扱量		排出量				移動量				除去処理量		消費量 (製品付着)	
			大気		水域		埋立		リサイクル					
	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度
アンチモン及びその化合物	53,500	48,000	0	0	0	0	0	0	2,100	7,700	0	0	51,400	40,300
クロム及び三価クロム化合物	21,100	18,900	0	0	0	0	0	0	800	3,000	0	0	20,300	15,900
ヘキサメチレンテトラミン	58,800	49,300	0	0	0	0	0	0	1,100	3,600	57,700	45,700	0	0
トルエン	5,200	4,000	5,200	4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フェノール	18,800	16,200	0	0	0	0	0	0	300	1,200	18,500	15,000	0	0
モリブデン及びその化合物	3,500	3,300	0	0	0	0	0	0	100	500	0	0	3,400	2,800
ホウ素化合物	1,700	1,900	0	0	0	0	0	0	—	300	0	0	1,700	1,600
総合計	162,600	141,600	5,200	4,000	0	0	0	0	4,400	16,300	76,200	60,700	76,800	60,600

取扱量が1t/年以上の物質を集計し掲載しました。ただしニッケル化合物など特定第一種化合物は500kg/年以上を集計し掲載しています。

四捨五入の影響により、マスバランスの合計値と異なる場合があります。

akebono国内主要企業別環境データ

曙ブレーキ岩楓製造株式会社 生産品目:ディスクブレーキ/ドラムブレーキ/シュー・アッシャー/プレート・アッシャー

[2002年3月 ISO14001認証取得]

◆大気(大気汚染防止法、県条例)	項目	単位	基準		2014年度実績		2015年度実績	
			規制値		最大値	平均値	最大値	平均値
	ばいじん	g/m ³ N	0.3					
	NOx	ppm	180		重油焚きボイラーを廃止したため、該当設備なし		重油焚きボイラーを廃止したため、該当設備なし	
	SOx	m ³ N/h	0.95					

◆水質(水質汚濁防止法、県条例)	項目	単位	通常	日間平均	最大値		平均値	
					最大値	平均値	最大値	平均値
	pH	—	5.8~8.6	—	7.4	7.2	7.6	7.1
	BOD	mg/l	25	20	25	18.7	25	14.3
	COD	mg/l	—	—	20	14.7	27	12.6
	ss(懸濁物質)	mg/l	60	50	11	4.9	7.5	4.0
	油分(nヘキサン抽出物)	mg/l	5	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	全窒素	mg/l	120	—	45	32.5	51	31.6
	全リン	mg/l	16	—	1.8	0.5	0.9	0.3
	大腸菌	個/cm ³	—	3,000	1500	250	2500	324
	全クロム	mg/l	2	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	フッ素	mg/l	8	—	0.5	0.3	不検出	不検出
	亜鉛	mg/l	2	—	2	0.7	0.7	0.4

◆PRTR法対象化学物質

単位:kg/年度

物質名	取扱量	排出量				移動量				除去処理量		消費量 (製品付着)		
		大気		水域		埋立		リサイクル						
		14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	
ニッケル化合物	10,700	10,300	0	0	0	0	0	0	4,300	7,100	0	0	6,400	3,200
総合計	10,700	10,300	0	0	0	0	0	0	4,300	7,100	0	0	6,400	3,200

取扱量が1t/年以上の物質を集計し掲載しました。ただしニッケル化合物など特定第一種化合物は500kg/年以上を集計し掲載しています。

四捨五入の影響により、マスバランスの合計値と異なる場合があります。

第6次総量規制により羽生(全窒素、全リン)、岩楓(COD、全窒素、全リン)が改定されました。2009年度の規制値を表しています。

akebono国内主要企業別環境データ

曙ブレーキ工業株式会社 本社 (埼玉県羽生市)

[2003年3月 ISO14001認証取得]

◆大気(大気汚染防止法、県条例)	項目	単位	基準		2014年度実績		2015年度実績	
			規制値	最大値	平均値	最大値	平均値	最大値
	ばいじん	g/m ³ N	0.05	0.003	0.002	0.001未満	0.001未満	—
	NOx	ppm	600	192	184	199	195	—
	SOx	m ³ N/h	0.63	—	—	—	—	—

◆水質(水質汚濁防止法、県条例)	項目	単位	通常	日間平均	最大値		平均値	
					※	※	※	※
	pH	—	5.8~8.6	—	7.9	7.6	8.0	7.7
	BOD	mg/l	25	20	3.0	1.6	1.2	1.2
	COD	kg/日	7.4	総量規制	※	※	※	※
	ss(懸濁物質)	mg/l	60	50	不検出	不検出	不検出	不検出
	油分(nへキサン抽出物)	mg/l	5	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	全窒素	kg/日	8.3	総量規制	※	※	※	※
	全リン	kg/日	1.23	総量規制	※	※	※	※
	大腸菌	個/cm ³	—	3,000	※	※	※	※
	フッ素	mg/l	8	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物、硝酸化合物	mg/l	100	—	—	—	—	—

※河川放流から本下水への変更に伴い総量規制項目及び大腸菌の測定を廃止

曙ブレーキ工業株式会社 館林鋳造所 生産品目:ブレーキ用部品の鋳造

[2010年3月 ISO 14001認証取得]

◆大気(大気汚染防止法、県条例)	項目	単位	基準		2014年度実績		2015年度実績	
			規制値	最大値	平均値	最大値	平均値	最大値
	ばいじん	g/m ³ N	0.2	—	0.0044未満	—	0.00098未満	—
	pH	—	5.8~8.6	—	—	6.8	—	6.7
	BOD	mg/l	25	20	—	5未満	—	5未満

akebono国内主要企業別環境データ

曙ブレーキ山陽製造株式会社 吉備第1工場 生産品目:ディスクブレーキ／ドラムブレーキ／シーアッサー／プレートアッサー

[2001年5月 ISO14001認証取得]

曙ブレーキ山陽製造株式会社 吉備第2工場 生産品目:ホイールシンダー

[2003年3月 ISO14001認証取得]

◆大気(大気汚染防止法、県条例)	項目	単位	基準 規制値	2014年度実績		2015年度実績	
				最大値	平均値	最大値	平均値
	ばいじん	g/m ³ N	—				
	NOx	ppm	—			—	—
	SOx	m ³ N/h	—				

◆水質(水質汚濁防止法、県条例)	項目	単位	通常	日間平均	最大値		平均値		最大値		平均値	
					最大値	平均値	最大値	平均値	最大値	平均値	最大値	平均値
	pH	—	6.0~8.0	—	7.9	7.7	7.9	7.7				
	BOD	mg/l	15	6	5.5	2.4	1.2	0.45				
	COD	mg/l	15.0	8	7.3	4.8	3.7	2.8				
	ss(懸濁物質)	mg/l	30	10	6.0	2.3	1.0	0.33				
	油分(nヘキサン抽出物)	mg/l	5	—	0.6	0.1	2.0	0.17				
	全窒素	mg/l	120	60	8.1	5.5	1.7	0.97				
	全リン	mg/l	2	2	6.7	4.4	0.1	0.06				
	大腸菌	個/cm ³	—	1,000	9	6	0	0				

◆PRTR法対象化学物質

単位:kg/年度

物質名	取扱量		排出量				移動量				除去処理量		消費量 (製品付着)	
			大気		水域		埋立		リサイクル					
	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度	14年度	15年度
クロロベンゼン	2,100	2,100	2,100	2,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トルエン	2,100	2,100	2,100	2,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合計	4,200	4,200	4,200	4,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

工業団地の共同廃水処理施設の改修工事に伴う仮施設での処理にともない、当該期間中は総社市公害防止協定値は免除され水質汚濁防止法の基準(油分=5mg/L 全窒素=120mg/L)を暫定適用しています。